

民主島根

2021年
12.5
第1396号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

水害が相次ぐ江の川流域 早急な治水対策の願い 切実

仁比前参院議員、大平元衆院議員が現地巡り調査



小松自治会長（右から2人目）から要望を聴取する（左へ）仁比前参院議員、向瀬西部地区委員長、多田江津市議と大平元衆院議員（右端）（江津市）

日本共産党の仁比聡平前参院議員と大平喜信元衆院議員は11月22日、水害が相次ぐ島根県西部の江の川の下流域を訪ねて治水対策を調査し、自治会長など被災者から要望を聞ききました。江の川の下流域は国の堤防整備の遅れなどで、近年では2018年、20年、21年の豪雨で3度の浸水被害が発生。仁比、大平の両氏は流域の美郷、川本の両町と江津市の7カ所の被災地を訪れました。中原保彦・美郷町議、森川佳英、多田伸治の両市議、向瀬慎一西部地区委員長が同行しました。



中国5県の日本共産党は11月19日、各地で「6」は「やつと、いい具合になった」と喜びつつ、移転費用の負担額について「まだ全然わからない」と語りました。江津市の38戸の渡田地区で、自治会長の小松隆司さん（65）は支流の田津谷川の流れを



「共闘さらに前進を」
仁比氏が江津、益田で集い
日本共産党の仁比聡平前参院議員は11月2

元的位置に戻し、堤防をつくる計画が約50年ぶりに動き出したと指摘。「ここに最後まで住みたい」「離れたくない」と言う高齢者も多い。安心して住める治水対策をお願いしたい」と求めました。

松江市では、日本共産党の尾村利成県議、田中肇、舟木健治、橋ふみ各市議らが商店街前で宣伝し、総選挙で掲げた公約実現に力を尽くすとともに、来年夏の参院選勝利に向けて「国民的な世論と運動を起し、市民と野党の共闘を広げ、政治を変える新たなたたかいにのぞんでいく」と決意を述べました。（写真）

尾村県議は「国民の声を聞かない自公政治がいつまでも続いていいわけがない。日本の政治を変える共闘の道を揺るがず発展させるために力を尽くす」と訴えました。また、国会議員に毎月支給される「文書通信交通滞在費」について

要」と話しました。その上で、比例代表での日本共産党2議席減という結果に触れ、NSなどでの野党共闘攻撃に対し、共産党が果たしてきた役割を紹介し、「今後地域住民要求と結び、地方政治も国政も変えていく運動が大切だ」と強調。27日に開かれる「4中総」も力に、参院選を勝ち抜こうと呼びかけました。

島根原発2号機の再稼働の是非を問う住民投票の実現をめざし、松江市で11月28日、市民団体を挙げて決める松江の会が署名運動のスタート集会を開きました。署名期間は12月26日まで。

て、共産党は以前から抜本的見直しを国会で繰り返して主張してきたことを紹介。「税金の使い道の最大の問題は年間320億円の政党助成金だ。ここにメスを入れ、廃止する議論を行っていくべきだ」と強調しました。

参加者からは「なぜ日本維新の会が伸びたのか」「農業と憲法を守る」とが大事だと思つてい「寄せられました。」

同日は「同・出雲の会」が出雲市内で設立総会を開催。来年1月11日から署名活動を始めます。

「コソコソと受任者を増やし、署名の輪を拡げていくことが秘訣だ」と強調。グリーンコープ生協（島根）の吉田由佳理事長、音楽家の浜田真理子さんからのメッセージが紹介されました。

鼓動

敬愛する瀬戸内寂聴さんが先日、99歳の大往生を遂げた。「書いた、愛した、生き抜いた」を自らの墓銘とした。無頼の生涯はメディアでも大きく報じられたので、ここでは繰り返すまい。他にも我が愛すべき人物がいる。今、BSで再放映中の「フーテンの寅さん」だ。寒風吹き抜ける師走の柴又駅。「お兄ちゃんどうして行くの。正月までいたら...」